

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年10月10日】第180号



伊勢原農場へ 厚木キャンパスへ

10月2日(月)には2年1組が伊勢原農場へ、5日(木)には1年1組が厚木キャンパスへと、校外学習にバスで出かけていきました。

1年生は厚木キャンパスでは、農学部デザイン農学科・生き物連携センター教授の土田あさみ先生に動物の、また農学部・植物園準教授の杉山立志先生には秋の植物についてご指導をいただきました。キャンパスの学生・院生や職員の皆さんにも応援をいただきました。ウマやヒツジなどのいるセンターで子どもたちはモルモットなどの動物に触れたり、キャンパス内を歩いて木の葉やイガ付きのクリを拾ったりと、自然を通して様々に学ぶことができました。

2年生は伊勢原農場で、鎌田 淳教授のご指導を受け、農場の皆様にもお世話になりました。グループごとに果樹の葉っぱをいただき、それぞれの果実を農場内で探す学習では、子どもたちはグループ内でも相談しながら力を合わせて、果実を一つずつ取らせていただきました。そして、その果実を、早速 試食。おいしい果物だけでなく、渋柿や、追熟がまだまだ必要なキウイの味も体験したようです。また、タブレットでの撮影にも取り組んだ一日でした。

大学の授業がはじまり授業やゼミ、実習などのある中、教職員の皆様には大変親切に対応していただきました。なお、それぞれの2組は、10月16日に伊勢原農場に、19日には厚木キャンパスにお世話になります。

◇東京農業大学 農学部デザイン農学科

<https://www.nodai.ac.jp/academics/agri/inno/>

◇東京農業大学 農学部植物園

<https://www.nodai.ac.jp/academics/agri/garden/>

相互授業観察

保護者による2学期の授業参観はすでに終わりましたが、本校では折々、教員がほかの教員の授業を見る、相互授業観察を行っています。算数の授業あるいは国語の授業を、お互いに見合うことによって、授業力のさらなる向上を目指しているのです。

教室に数人の教員が入っていても、子どもたちの様子はいつもと変わりません。その中で、授業のねらい、進め方やまとめ方、電子黒板の使い方、さらに子どもたちの様子をどのように丁寧に見ていくのかなどを観察します。授業後には、授業者を含めた振り返りも行われ、授業者にも授業力向上の機会となっています。

授業では、「協働的な学び」すなわち「子どもたち一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられたり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切(文部科学省)」であるとされています。教員は、知識を与え習得させるだけでなく、子どもたち同士が学び合

えるような授業を行うよう努めています。

事前面接が開始

10月2日(月)および3日(火)には、11月に行われる入学試験に向けて、今年もたくさんの志願者からの出願をいただきました。10日(火)からはオンラインによる事前面接がはじまります。オンラインのため、ご家庭というリラックスした環境でお子様には面接を受けていただくことができると考えています。

生活習慣を見直したり、お子様と接する時間を増やしたり、より充実した時間を作るなど、小学校受験をよい機会としてお子様と向き合われるご家庭が多いのはうれしいことです。とはいえ、中高や大学の入学試験と違い、受験生はまだ幼いお子様です。小学校受験がお子様やご家族に過度の負担にならないことを願っています。そして、11月の入学試験(行動観察とペーパーテスト)には、本校で元気なお子様たちとお目にかかるのを楽しみにしています。

カボチャの重さ当てクイズ

東京農業大学元教員の梅室英夫先生がトラックでお届けくださった大きなカボチャ。この重さを当てるクイズをしたところ、250名を超える子どもたちが参加しました。数百キロになるという本格的なお化けカボチャよりは小さいものですが、子どもたちにとっては抱えるほどのカボチャです。3キロから数十キロまで様々な答えが集まりました。10月6日(金)の昼休み、保健室の体重計を借りてカボチャの重さ測定を行ったところ、13.35キログラムということで、ピッタリ賞1人、各学年からのニアピン賞が選ばれ、小さな賞状を持ち帰りました。重さを推測することも、一つの学びです。正解発表のあとは、子どもたちが自由にカボチャを持ち上げて、重さを実感していました。



東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子